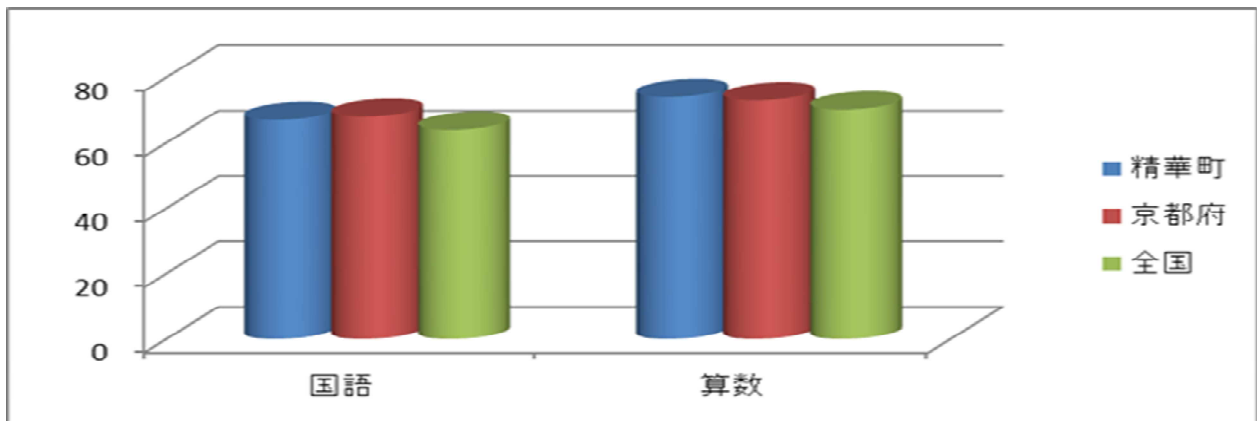


## 全国学力・学習状況調査の結果

(令和3年5月27日実施)

## 【小学6年生】

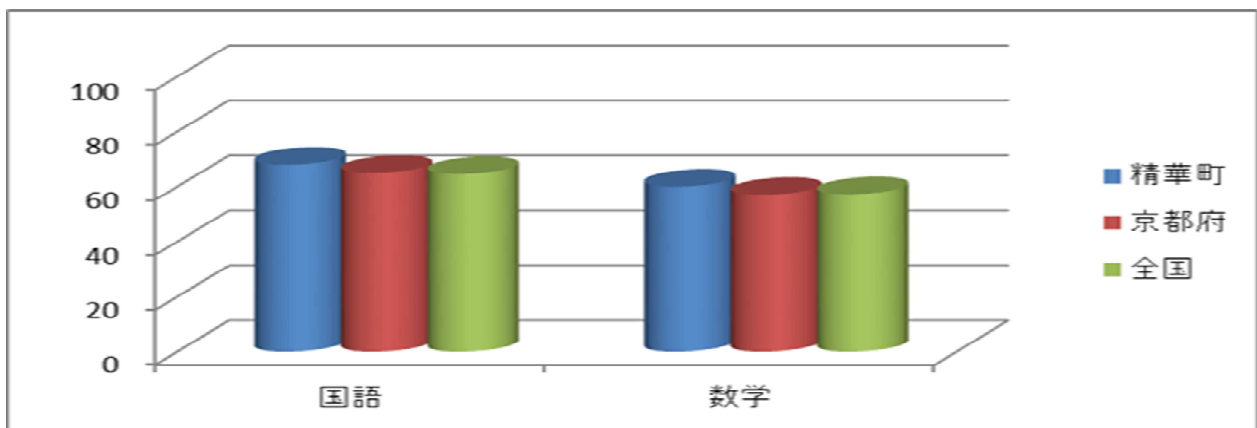


国語の問題では、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」問題や「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」問題では、府平均、全国平均より高く、また「目的や意図に応じ、資料を使って話す」問題や、「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報だけを見る」問題においては、特に優れていました。しかし、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題では課題が残りました。

算数の問題では、「速さと道のりを基に、時間を表すことができる」問題や、「示された除法の結果について日常生活の場面に即して判断することができる」問題は特に優れていました。

各学校では、これらの調査結果を詳細に分析し、子どもたちの学力向上に向け、授業改善に生かしていきます。

## 【中学3年生】



国語の問題では、「読む・書く・話す・聞く」の学習領域でバランスよく習得できており全国を上回っています。「相手や場に応じて敬語を適切に使う」力に関する問については、特に優れていました。また、「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」問いにおいても優れており、コロナ禍で学習活動が制限されていた中であっても、これまでの「話合い活動」の継続的な指導が定着していると言えます。

数学の問題では、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の各領域とも全国を上回る結果になりました。資料を活用し、特徴や判断の理由などを説明する問については特に優れていました。

## 地域や社会に関心を持つ精華町の子もたち！

### カテゴリー1 《学習状況について》

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の二つの質問では、小学校、中学校とも、全国・府の平均を上回り、主体的な学習活動が充実していることがうかがえます。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した中学3年生は、全国平均よりも低い結果となりました。

### カテゴリー2 《学校生活について》

「学校へ行くのが楽しいと思いますか」の質問に対し、小学6年生、中学3年生ともに約8割が肯定的な回答をしています。また、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問ではを合わせて、95%ほどの児童生徒が、「当てはまる・どちらかという当てはまる」と回答しました。これは全国・府ともに精華町が上回っており、コロナ禍のため、お互いに距離を保ちながらでの学校生活ですが、行事や授業、毎日の学校生活の中で、多くの子どもたちが友達と協力することの楽しさを感じていることが分かりました。

### カテゴリー3 《自分自身の事について》

「自分には良いところがあると思いますか」の質問では「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学6年生及び中学3年生が、京都府平均並みですが、全国平均より若干低いことが分かりました。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせると小学6年生で73.1%、中学3年生で62.6%の児童生徒が「挑戦する」という回答でした。「自分で決めたことは、やり遂げるようにしていますか」については、小学6年生で88.1%の児童が、中学3年生で80.5%の生徒が肯定的な回答をしています。

### カテゴリー4 《規範意識について》

「人が困っているときは、進んで助けていますか」の問いでは、小学校では90.0%、85.6%の児童生徒が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えていました。「いじめ」に関する質問においては、ほとんどの児童生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と判断しています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問においては、95%以上の児童生徒が肯定的な回答をしていました。

### カテゴリー5 《地域社会との関わりについて》

※ 「質問紙調査の結果より、特徴的な状況として」を参照

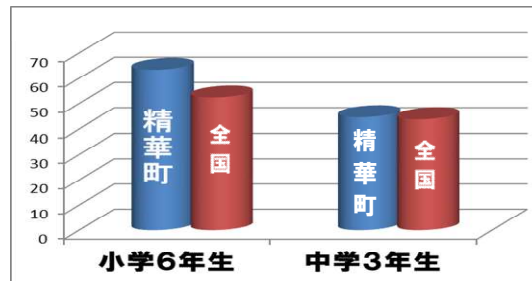
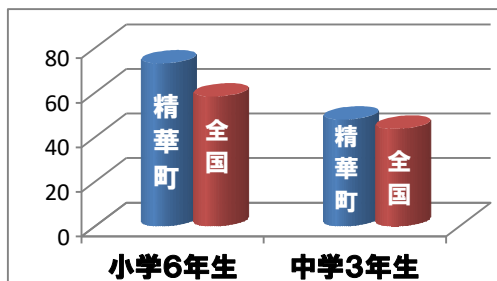
### カテゴリー6 《家庭生活について》

朝食については、小学6年生及び中学3年生ともに90%以上の子どもたちが、ほぼ毎日食べて登校していることがわかりました。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか」の質問から、小学6年生で約8割、中学3年生で約9割の子どもが携帯電話・スマートフォン・コンピュータを持っていることがわかりました。また、使い方の約束については、携帯電話・スマートフォン・コンピュータを持っている子どものうち、小学生で約8割、中学生で約7割の子どもたちが、「きちんと守っている・だいたい守っている」と答えています。これは、全国、京都府と比べても、割合が高くなっています。

### ◆◆◆質問紙調査の結果より、特徴的な状況として

【質問】今住んでいる地域の行事に参加していますか。

【質問】地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。



「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の質問で「はどちらかといえば参加してい」るも含めて小学6年生の73.1%の児童が、中学3年生で47.9%の生徒が地域の行事に参加しています。中学校では、部活動などで行事に参加できにくい状況があると考えられますが、全国平均を上回っています。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。」の質問でも、小学校では全国平均を大きく上回りました。将来の精華町を担う子どもたちが、地域に関心を持ち、地域のことを考えていることがわかりました。